

第 144 回 八大学工学関連研究科長等会議 議事録 (案)

日 時 : 2022 年 9 月 16 日 (金) 14:00~17:45

場 所 : 京王プラザホテル札幌/オンライン(Webex)のハイブリッド

出席者 : 別紙出席者名簿のとおり

議題

1. 前回議事録確認
2. 2022 年度第 1 回運営委員会報告
3. 運営委員会第 1 分科会-博士フォーラム-
4. 運営委員会第 2 分科会-若手研究者育成-
5. 運営委員会第 3 分科会-メッセージ発信のためのデータ収集-
6. 2022 年度公開シンポジウム
7. 就職活動実態調査に関する朝日新聞記事
8. ADF (Asian Deans' Forum) Rising Stars Women in Engineering Workshop 2022
9. 2023 年 (令和 5 年) 春常設会議

10. 講演

講演 1 「大学での分野横断教育研究ー北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究
教育拠点の実践ー」

北海道大学 理事・副学長 増田 隆夫

北海道大学大学院工学研究院環境工学部門教授 石井 一英

講演 2 「産学連携によるイノベーション創出」

経済産業省 産業技術環境局大学連携推進室 室長 大石 知広

講演 3 「我が国の未来をけん引する工学教育の在り方について」

文部科学省 高等教育局専門教育課企画官 鈴木 顕

(11) その他

配付資料

資料 1_1 第 143 回八大学工学関連研究科長等会議議事録 (案)

資料 2_1 2022 年度第 1 回運営委員会議事録 (案)

資料 3_1 第 1 分科会-2022 年度博士フォーラム-活動状況

資料 4_1 第 2 分科会-若手研究者育成-活動状況

資料 5_1 第 3 分科会-メッセージ発信のためのデータ収集-活動状況

資料 6_1 過去の公開シンポジウム開催状況

資料 7_1 就職活動実態調査に関する朝日新聞記事

資料 8_1 Rising Stars Women in Engineering Workshop 2022 Program

資料 9_1 2023 年 (令和 5 年) 春常設会議開催案内

開会の辞

事務局より、第 144 回八大学工学関連研究科長等会議の開会宣言があった。

議長選出

幹事校である北海道大学の瀬戸口先生が議長に選出された。

自己紹介

議事に先立ち、出席者から自己紹介が行われた。

議事要旨

1. 前回議事録確認

事務局より、資料 1_1 に基づき、2022 年 4 月 22 日にオンライン開催した第 143 回八大学工学関連研究科長等会議の議事録確認が行われた。

2. 2022 年度第 1 回運営委員会報告

事務局より、資料 2_1 に基づき、2022 年 6 月 2 日に 2022 年度第 1 回運営委員会をオンライン開催し、各分科会の活動について紹介されたことが報告された。

3. 運営委員会第 1 分科会-博士フォーラム-

京都大学の杉野目先生より、資料 3_1 に基づき、今年度の博士フォーラムについて、日程、開催形式、企画内容、午前開催の工学部長会議での意見等について報告があり、以下のとおり意見交換が行われた。

(○：杉野目先生 ●：出席者)

- 海外では博士のステータスが上がっており、博士号を取得していなければ、企画や運営会議に出席する権利すらないところもある。博士号を取得している特典が日本と海外では違うことを、学生にアピールできればと思う。
- 博士に夢を与える趣旨でいくか、現実について意見交換をする趣旨でいくかにより、どの企業を呼ぶかが変わってくる。
- 博士が欲しいという企業がたくさんあることを学生は知らないなので、博士フォーラムでは企業に聞いてみたいとの意見がある。実際に博士の能力を評価して採用する仕組みがある企業、あるいは教育的インターンシップに真面目に取り組んでいる企業に講演をしてもらう方向で人選している。
- 博士学生がどのように企業を探せばよいかも非常に大事な観点である。北大には赤い糸会がある。これは人材育成本部が中心となり、博士学生と企業の人事担当とのマッチングを実施している取り組みで、それにより就職した学生が増えている。
- 就職活動の期間が長くなり、夏頃から研究に専念できず、修士及び博士のキャリアを作っていくうえで支障が生じている状況がある。八大学で協力して博士人材の就職スキー

ムを博士フォーラムで検討できればと思う。

- 博士学生も将来が不安であるから、修士学生と同じように早くから就職活動に参加してしまう。修士学生も博士に行く意思決定の前に就職してしまう。ぜひこれを議論のスタート地点にしていいただければと期待している。

4. 運営委員会第2分科会-若手研究者育成-

名古屋大学の尾上先生より、資料4-1に基づき、各大学が把握している就職先企業リストを無理のない範囲で提出いただきデータベース化すること、企業に就職している博士号取得者に対して、処遇、給与、昇進に関する意識調査を実施すること及び午前開催の工学部長会議での意見等について報告があり、以下のとおり意見交換が行われた。

(○：尾上先生 ●：出席者)

○外資系では博士はそれなりの処遇がされている。外資系と日本企業にアンケートを実施すると処遇の違いが明確になると思う。

- 博士課程の半分は留学生であることから、可能であれば英語版も作成いただきたい。また、日本で同じ教育を受けながら留学生が海外に戻って就職すると博士の待遇がよいということがある。これでは日本人学生が気の毒であり、何とかしなければならない。優秀な日本人学生がむしろ海外に就職してしまうことになりかねない。留学生と日本人学生のキャリアの違いがあるかどうか見えると参考になる。

5. 運営委員会第3分科会-メッセージ発信のためのデータ収集-

東北大学の伊藤先生より、資料5_1に基づき、第3分科会活動、予定、午前開催の工学部長会議での意見等について報告があり、以下のとおり意見交換が行われた。

(○：伊藤先生 ●：出席者)

- 日本の工学博士の6割は八大学出身なので、どこかで資料5_1のグラフを公開できれば、八大学の役割が大きいことがわかる。
- 前回の本会議では女子学生、留学生等の比率について詳細な結果を示したが、今後は比率の変化についても分析していきたい。

6. 2022年度公開シンポジウム

事務局より、資料6_1に基づき、過去の公開シンポジウムについて報告があった後、今年度の公開シンポジウムについて以下のとおり意見交換が行われた。

(○：事務局 ●：出席者)

- 4月の社員総会で本件について議論した際には、今年度の目標は若手研究者の育成として博士の経済的支援があったが、午前の会議を踏まえ、バラエティに富んだイグジットの在り方や入口の在り方に関する議論が多くなることをご承知いただきたい。
- 取りまとめた内容をシンポジウムで公開する前提にしたい。

7. 就職活動実態調査に関する朝日新聞記事

事務局より、資料 7_1 に基づき、朝日新聞に就職活動実態調査の結果が掲載されたことについて報告があった。

8. ADF (Asian Dean's Forum) Rising Stars Women in Engineering Workshop 2022

事務局より、資料 8_1 に基づき、ADF (Asian Deans' Forum) Rising Stars Women in Engineering Workshop 2022 について報告があった。

9. 2023 年 (令和 5 年) 春常設会議

井上会長から、資料 9_1 に基づき、2023 年 (令和 5 年) 春常設会議について、4 月 21 日 (金) にハイブリッド形式にて、フクラシア品川クリスタルにて開催することについて報告があった。

その他

九州大学の園田先生より、2023 年秋常設会議について、九州大学が当番校となり、9 月 29 日 (金) の開催を検討していることについて説明があった。

その他以下のとおり意見交換が行われた。

- ・情報領域など博士人材の獲得が競合する分野では、博士にカウンターオファーを出し、能力に応じた待遇で迎えるグローバルスタンダードな人材獲得が日本でも始まっている。海外企業に講師を依頼するのは大変であるので、そのような日本企業に登壇していただければ、学生に強烈なメッセージになると思う。
- ・今回の博士フォーラムに、そのような日本企業の方が短時間の登壇となるのはもったいない。また、人選にも時間がかかることから、次回のフォーラムに持ち越すかもしれない。来ていただけることになったら、博士の活躍を中心に議論するのもよいかもしれない。
- ・八大学の中で講演の適任者がいないか調査して、ある種のフォーラムで話してもらえば、大きな流れになる。
- ・博士で活躍している方を発掘するのは有意義なことだ。
- ・海外で活躍されている方は、オンラインで参加していただく場合でも平日は難しいと思う。そのあたりは配慮が必要。もちろん対面のほうが学生と意見交換ができるのでよい。
- ・海外は時差があるのでオンラインで接続するのも難しい。まずはビデオメッセージをいただくのも意味がある。ディスカッションをするのは次の段階でもよいかもしれない。また、各大学の海外オフィスなど国際連携の出先機関において、情報収集するのも一つの方法である。
- ・大学の指導教員自身が博士学生に対する教育を見つめ直す必要がある。修士学生は就職活動に時間を取られ、研究に本格的に取り組めないため、教員は博士課程の学生に研究を進めることを求めがちである。博士学生が今後活躍できる人材になるには、それなりの教

育が必要であり、教育視野を広げるための対外的な経験が必要である。そういうことも議論すべきである。

- ・3月のシンポジウムは公開のため、大学の先生方にも広くご参加いただくことができる。聞いてもらいたいコンテンツを準備することが第一だが、各部会の報告以外に今日いただいたご意見を踏まえた準備ができればと思う。また、海外の企業で活躍されている方の話を聞いて、海外の企業に行ってくださいではなく、むしろ日本企業に聞いてもらい、日本企業にもう少し頑張ってもらいたいという情報を発信していきたい。
- ・大学における博士学生の育成の仕方は大事である。各大学は次世代研究者挑戦的研究プログラムを受けているので、本プログラムで何をしているのかについて情報交換をするのであれば、情報は大学にあるのですぐに準備できるのではないかと。
- ・広く日本の企業に知ってもらいたい意味では、YouTubeで発信することもご検討いただきたい。それをいろいろな所で活用させていただきたい。

10. 講演

講演 1

北海道大学理事・副学長 増田 隆夫氏及び北海道大学大学院工学研究院環境工学部門教授 石井 一英氏より、「大学での分野横断教育研究－北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点の実践－」と題して、北海道大学で展開している分野横断的な教育研究について講演後、研究教育拠点名の由来、目標及び KPI の状況、技術流出への対策等について、質疑応答が行われた。

講演 2

経済産業省 産業技術環境局大学連携推進室 室長 大石 知広氏より、「産学連携によるイノベーション創出」と題して、経済産業政策の新機軸、博士人材の活躍への期待、経済産業省の主な産業技術政策等について講演後、企業の博士人材採用促進方策、博士人材の育成方法、博士人材に対する企業と大学の認識の違い等について、質疑応答及び意見交換が行われた。

講演 3

文部科学省 高等教育局専門教育課企画官 鈴木 顕氏より、「我が国の未来をけん引する工学教育の在り方について」と題して、我が国を取り巻く状況と政策の動向、令和5年度概算要求、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度、スキームD、ジョブ型研究インターンシップ等について講演後、初中教育段階における理科教育、学部学生の海外インターンシップの可能性、燃料費高騰による大学の予算圧迫、留学生の卒業後の日本定着等について、質疑応答及び意見交換が行われた。

瀬戸口議長より、以上をもって、第 144 回八大学工学関連研究科長等会議を閉会することの宣言があった。

最後に、事務局より、2022 年度秋の常設会議の閉会宣言があった。

以上

八大学工学関連研究科長等会議出席者名簿

機関名	役職名	氏名	備考
北海道大学大学院工学研究院	研究院長	瀬戸口 剛	
	副研究院長・評議員	幅崎 浩樹	
北海道大学大学院情報科学研究科	研究院長	長谷山 美紀	WEB
	副研究院長	近野 敦	WEB
	副研究院長	浅井 哲也	WEB
東北大学大学院工学研究科	研究科長	湯上 浩雄	
東北大学大学院情報科学研究科	研究科長	加藤 寧	WEB
東北大学大学院環境科学研究科	研究科長	川田 達也	WEB
東北大学大学院医工学研究科	研究科長	西條 芳文	WEB
東京大学大学院工学系研究科	研究科長	染谷 隆夫	
東京大学大学院情報理工学系研究科	副研究科長	葛岡 英明	WEB
東京大学大学院新領域創成科学研究科	研究科長	出口 敦	
	副研究科長	徳永 朋祥	WEB
東京工業大学工学院	学院長	井上 光太郎	
東京工業大学物質理工学院	副学院長	藤居 俊之	WEB
東京工業大学環境・社会理工学院	学院長	高田 潤一	
東京工業大学生命理工学院	学院長	梶原 将	
名古屋大学大学院工学研究科	研究科長	宮崎 誠一	
名古屋大学大学院情報学研究科	副研究科長	石川 佳治	WEB
京都大学大学院工学研究科	研究科長	榎木 哲夫	
京都大学大学院エネルギー科学研究科	研究科長	平藤 哲司	WEB
京都大学大学院情報学研究科	研究科長	河原 達也	WEB
大阪大学大学院工学研究科	研究科長	桑畑 進	
大阪大学大学院基礎工学研究科	研究科長	和田 成生	
	教育研究評議員	関山 明	WEB
九州大学大学院工学研究院	研究院長	園田 佳巨	
	副研究院長	田中 敬二	WEB
九州大学大学院システム情報科学研究科	研究院長	村田 純一	
九州大学大学院芸術工学研究院	研究院長	尾本 章	

講演者

機関名	役職名	氏名	備考
北海道大学	理事・副学長	増田 隆夫	
北海道大学大学院工学研究院	教授	石井 一英	
経済産業省産業技術環境局大学連携推進室	室長	大石 知広	
文部科学省高等教育局専門教育課	企画官	鈴木 顕	
文部科学省高等教育局専門教育課	科学・技術教育係長	村上 寛和	

運営委員

機関名	役職名	氏名	備考
北海道大学大学院工学研究院・工学院	副研究院長	泉 典洋	
	工学研究院長補佐	中村 孝	WEB
東北大学大学院工学研究科	副研究科長	服部 徹太郎	WEB
東北大学大学院工学研究科	副研究科長	伊藤 彰則	
東京大学大学院工学系研究科	副研究科長	加藤 泰浩	WEB
東京工業大学環境・社会理工学院	副学院長	木内 豪	WEB
東京工業大学物質理工学院	副学院長	藤居 俊之	WEB/再掲
名古屋大学大学院工学研究科	副研究科長	尾上 順	
	副研究科長	鈴木 達也	WEB
京都大学大学院工学研究科	副研究科長	杉野目 道紀	
	副研究科長	岸田 潔	
大阪大学大学院工学研究科	教育研究評議員	尾崎 雅則	
大阪大学大学院基礎工学研究科	副研究科長	馬越 大	WEB
九州大学大学院工学研究院	副研究院長	中島 邦彦	WEB
九州大学大学院システム情報科学研究院	副研究院長	鶴林 尚靖	

陪席者

機関名	役職名	氏名	備考
北海道大学工学系事務部	事務部長	佐々木 博之	
	総務課長	原田 由美	
	経理課長	松橋 和哉	
北海道大学大学院情報科学研究院	事務課長	紙丸 雅実	WEB
北海道大学大学院総合化学院	事務室長	千葉 良秀	
東北大学大学院工学研究科	事務部長	阿部 昭	WEB
	総務課長	木皿 卓郎	WEB
東北大学大学院環境科学研究科	事務室長	高橋 哲也	WEB
東京大学工学系・情報理工学系等	事務部長	櫻井 明	WEB
	総務課長	仁藤 彰郎	WEB
東京大学大学院新領域創成科学研究科	事務長	眞鍋 浩二	WEB
	副事務長	古川 義孝	WEB
	総務チーム係長	鈴木 俊祐	
東京工業大学学院等事務部	総務チーム係長	三浦 勝正	
	学院等事務部長	平井 陽子	WEB
	工学院業務推進課長	臼井 秀明	WEB
	生命理工学院業務推進課長	西村 圭司	
	工学院業務推進課 工学院運営事務グループ長	小沼 健一郎	
名古屋大学大学院工学研究科	物質理工学院業務推進課 物質理工学院運営事務グループ長	原 加代子	WEB
	環境・社会理工学院業務推進課 環境・社会理工学院事務グループ長	太田 邦之	WEB
名古屋大学大学院情報学研究科	事務部長	武内 松二	
	総務課長	松原 聖子	WEB
	教務課長	大久保 淳	WEB
京都大学大学院工学研究科	事務部長	梶村 正治	WEB
桂地区(工学研究科)	総務課長	野田 航多	WEB
	教務課長	幣 真由美	WEB
京都大学大学院エネルギー科学研究科	事務長	平田 美穂	WEB
京都大学大学院情報学研究科	事務長	井本 憲	WEB
大阪大学大学院工学研究科	事務部長	池本 忠雄	
	総務課長	大谷 裕子	
大阪大学大学院基礎工学研究科	事務長	多田 浩基	WEB
九州大学工学部等事務部	事務部長	住田 憲紀	
	総務課長	山下 和成	
九州大学芸術工学部	事務部長	永野間 昌代	
九州大学大学院総合理工学研究院	筑紫地区事務部長	三海 和広	WEB

八大学工学系連合会事務局

機関名	役職名	氏名	備考
八大学工学系連合会	事務局長	横野 泰之	
	事務局員	安尾 千恵子	